

# ともにあゆむ

令和5年2月22日(水)

日頃より、本校の進路支援に関してご理解とご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。第3号の「ともにあゆむ」では、「福祉サービスについて②」「校内進路研修会」「卒業後の生活をイメージしよう～事業所を調べてみよう～」 「同窓会を知っていますか？」についてお伝えします。

今は卒業・進級に向けてまとめをしている時期です。進路についていろいろな情報を得て、ご家族で進路について考える機会になればよいと考えております。

## 福祉サービスについて②

卒業後の進路の1つに、障害福祉サービスの利用があります。障害福祉サービスには、大きく分けて「介護給付」「訓練等給付」「地域生活支援事業」の3種類があります。今回は、「訓練等給付」の中のサービス「就労継続支援 A 型」「就労継続支援 B 型」「就労移行支援」についてお伝えします。

就労継続支援 A 型	対象者
就労機会の提供を通じ、生産活動にかかる知識及び能力の向上を図ることにより、雇用契約に基づく就労が可能な者（利用開始時、65歳未満）	① 就労移行支援事業を利用したが、企業等の雇用に結びつかなかった者
	② 盲・ろう・養護学校を卒業して就職活動を行ったが、企業等の雇用に結びつかなかった者
	③ 企業等を離職した者等就労経験のある者で、現に雇用関係がない者

就労継続支援 A 型は、事業所と利用者との間で雇用契約を結び、労働基準法に準じた業務を行うことになっています。そのため、原則として地域の最低賃金を守ることが義務づけられています。

就労継続支援 A 型は雇用契約が行われるため、ある程度の就業能力が必要となります。そのため、利用者は、就職したいけどなかなかできない人や、少しの支援があれば働けるという人が中心になります。事業の内容も多種多様で食品加工業やクリーニング業、配食サービスや喫茶店をしているなどもあります。

<b>就労継続支援 B 型</b>	<b>対 象 者</b>
就労移行支援事業等を利用したが、一般企業等の雇用に結びつかない者や、一定年齢に達している者などであって、就労の機会等を通じ、生産活動にかかる知識及び能力の向上や維持に期待される者	① 企業や就労継続支援事業（A 型）での就労経験があるものであって、年齢や体力の面で雇用されることが困難となった者
	② 就労移行支援事業を利用したが、企業等または就労継続支援事業（A 型）の雇用に結びつかなかった者
	③ ①②に該当しない者であって、50 歳に達している者、または試行（就労アセスメント）の結果、企業等の雇用、就労移行支援事業や就労継続支援事業（A 型）の利用が困難と判断された者

就労継続支援 B 型は事業所と利用者との間で雇用契約は結ばずに、就労や生産活動の機会の提供、また就労意欲が高まった人には一般就労に向けた支援を行い、工賃を支給します。利用者の状態に合わせて作業内容を調整することができるため、就職となるとハードルが高い人でも通いやすい反面、工賃は低いところがほとんどです。年齢やその他の事情によって、他の就労支援サービスを利用したくても就労できない人に働く場を提供するサービスです。作業内容は会社の下請け作業やパン・クッキーの製造、清掃作業などがあります。

<b>就労移行支援</b>
一般就労等を希望し、知能・能力の向上、実習、職場探し等を通じ、適性に合った職場等への就労が見込まれる 65 歳未満の障がい者

就労移行支援は、一般企業での就業や、あるいは仕事で独立することを目指す障がい者が、本人に見合った職場への就職と定着を目指して行われるサービスです。その特性上、対象が 65 歳未満に限定されており、集中的に支援活動ができるように、原則として利用期間が 24 ヶ月（必要性があれば最大 12 ヶ月間の更新可能）と決められています。

就労移行支援は、ただ一般企業に就職が決まればおしまいというものではなく、その後、安定して働き続けることができるかが大切になります。そのため、一般企業のほか、ハローワークや地域障害者職業センター、障害者就業・生活支援センターなど、関連する機関・施設と連携することも重要になります。

【文責：高等部 村上】

## 校内進路研修会

全教職員が、キャリア発達支援の視点から社会生活・就労に向けた12年間の段階的な指導を捉えることの必要性について共通理解を図り、今後の実践に活かすことを目的として1月13日（金）に第2回進路研修会を開催しました。

「株式会社ユーファースト」代表取締役 吉岡俊史 氏を講師としてお迎えし、「生徒さんの力を学校から社会へつなげるために～就労移行支援事業所のキャリア発達支援～」の演題で講義をしていただきました。

主な内容として、①就労移行支援事業所について、②障がい者がはたらく意義、③就労移行支援事業所ユースターにおけるキャリア発達の支援と就労、④特別支援学校との連携などについて、学校から社会へつなげる福祉の立場から、実践に基づく具体的で分かりやすい説明をしていただきました。



①就労移行支援事業所については、標準利用期間の2年（必要性が認められれば1年間延長）で、はたらく目的やはたらいて生活する意義を追求して実践する場所であり、一般企業への就労につながる取組みを行っていることを確認しました。就労継続支援B型事業所から就労継続支援A型事業所へ、その先の一般企業につながる進み方もありますが、福祉サービス事業所と利用者双方が現状維持をよしとする状況があるため、一般企業の就労につながる流れは滞り傾向であることを知ることができました。生徒一人一人のより良い進路を考えていく上で、福祉制度における各福祉サービスの目的を明確に捉え直す必要性を感じました。

②障がい者がはたらく意義においては、職業の「職」が自分の個性、役割、自分が存在している意義を意味すること、一般企業に限らず福祉関連機関で働くことも含めて、働くことは自己実現や人に喜ばれる、役に立つ、働きがい、生きがいなどを高め維持することになることを確認しました。私自身が日常的に感じるのはたらく意義も同じであり、はたらく続けたい、より成長したいと思いつけるために大切であると思いました。

③就労移行支援事業所ユースターにおけるキャリア発達の支援と就労においては、就職させる支援ではなく、社会で生きるために必要な支援を行うことの大切さを確認しました。ユースターでは詳しく適切にアセスメントを行った上で、プログラム化された支援内容から必要な複数の支援を組み合わせているという説明でした。社会で働いて生活するための基本的な力に基づいた支援プログラムは約二百種類に渡り、より適切なアセスメントや支援内容の設定を行う上で必要な多くの視点に気付くことができました。

④特別支援学校との連携については、企業が求めるもの、社会が求めるもの、社会で生きていく力についての説明の中で、特に「危険回避力」を身に付ける必要性を感じました。

今回の研修で得た学びを全教職員で共通理解を図り、児童生徒が働くことをとおして「社会で豊かに生きる」ことの実現を目指した支援を実践していきたいと思えます。

【文責：小学部 廣本】



## 卒業後の生活をイメージしよう～事業所を調べてみよう～

進路について考えるとき、どこにどのような福祉サービス事業所があるのだろうと、思われる方もいらっしゃると思います。進路担当が大変重宝したのが、下にアドレスを添付した「十勝障害者就労・生活支援センター だいち」のサイトにある「資源マップ」です。このサイトは就労系の各福祉サービス事業所情報のほか、帯広市の地域ガイド「ささえーる」や、十勝管内の様々な福祉サービス事業所が載っている一覧などもリンクしており、とにかくいろいろ探せます。

<http://www.keisei-kai.jp/daichi/blog/riff1/379>

事業所の中には飲食を提供しているところや、パンや焼菓子、小物などを製造し販売しているところなど、店舗運営しているところもあります。サイトを見ていると「日頃、よく通りがかったお店が福祉サービス事業所だった！」なんてこともあるかもしれません。お子さんが小学部、中学部の段階では事業所を見学する機会がそれほど多くないと思いますが、お店であれば気軽に入れるのではないのでしょうか？

サイトをのぞいて将来の生活をイメージしてみたり、時にはお子さんを連れてお店を訪れ「学校を卒業した先輩たちは、こんなお仕事してるんだよ。」など話をしたりして、高等部を卒業したあとの進路について、ご家庭で話題にするのも良いのではないかと思います。

【文責：高等部 佐々木】

## 同窓会を知っていますか？

高等部を卒業する方と中学部を卒業する方（他校へ進学する方）に、「同窓会」のご案内をしています。

「同窓会」は、卒業生同士の親睦を図ることや卒業後の情報交流を目的としており、現在は75名が会員です。同級生だけではなく、先輩と交流をすることで会員同士の横のつながりが、保護者の皆さんは先輩たちからお話を聞いたり、悩みを相談できる場となっております。

同窓生が集まる「同窓生のつどい」は、年1回、7月下旬の金曜日に実施しています。来年度は「同窓会入会式」「同窓会総会」「同窓生の交流（ゲーム、近況報告）」「茶話会（保護者）」の内容を予定しています。

また、年に1回会報「たいようさん」を発行しており、「同窓生のつどい」の様子や同窓生の近況を知る良い機会となっております。

同窓会は学校を卒業してから仲間と会える一つの大切な機会です。在学中から同窓会について知っていただき、卒業時には入会を検討していただければと思います。



参加者で記念撮影



交流（ゲーム・近況報告）

【文責：高等部 上田】